

世界に通じる水処理技術 確固たる製品への自信と、 常識を打ち破るベンチャー精神

広洋技研

「うちの会社はね、北海道から沖縄まで(製品が)入っている。ない県はないよ。全国にある」。広洋技研(品川区南大井、貝原和年社長、03・3762・1511)の貝原社長は自信をもって話す。同社は、生活に欠かせない「水」に関わる事業を創業当初から一貫して行ってきた。

「私は業界では異端児です」と貝原社長は言う。昭和49年にベンチャー企業の先駆的存在として創立。当時は、インフラ設備を導入する立場の官公庁が機器の許認可に相当の時間を掛けてしまうため、実績のある欧米の既製品に頼らざるを得ないのが業界の常識であり、国内の水処理現場では海外製の機器が主力だった。しかし、貝原社長が海外製品の製造現場を視察した際、日本ではメジャーな

製品も小さな町工場で作られていた事実を知って驚いた。横文字で描かれた欧米製品だというだけで、技術的にはそれほど大差ない。固定概念にとらわれていては、新しいもの、独自のものは生み出せないと強く思った。

「オリジナル製品はできる！中小企業でもそういう企業だってあることを知ってもらいたい」。同社は3つの企業理念を掲げている。1つ目は「ものまねをしない」、2つ目は、「他社の製品は扱わない」、3つ目は、「下請けはしない」。徹底して独自製品の開発にこだわりの、信頼できる製品とメンテナンスによって、中小企業でも大企業と対等に取引ができることを証明、業界の常識を打ち破った。そして今では、一介のベンチャー企業だった同社を、国内の水処理現場には欠かせない製品を手掛ける企業にまで成長させた。



「自信を持って自社製品を提供します」と貝原社長(左)

「景気が悪くても、必要であればお客様から選んでいただける。全国に広洋技研がなければ困る、そういう会社でなければならぬ。それが企業として存在する価値だよ」貝原社長は、自信と誇りを持った満面の笑みでそう答えてくれた。同社は、今後も創業当初のベンチャー精神を忘れることなく、清らかな水環境への貢献とともに業界の発展に尽くしてくるだろう。